

*Digest of Science of Labour*

# 労働の科学



2021  
*December*  
Vol. 76, No. 12



## 創立100周年記念特別号

**[鼎談] 100年に学びつつ、今と未来を語る**

小池一夫・濱野潤・酒井一博

**[理事長挨拶]**

濱野潤

**[レポート] 地域連携 倉敷と労働科学研究所**

編集部

**[ご祝辞]**

大原謙一郎／伊藤正明／藤田晴哉

**未来を拓く産学連携**

日本労働科学学会の設立と意義／酒井一博

桜美林大学・大学院との連携／山口有次／境睦

連携講座について／坂本恒夫

**労働科学とともに**

岸田孝弥／肝付邦憲／小木和孝／斉藤進／福成雄三

**[研究員の活動報告] 労研は今**

井上枝一郎／北島洋樹／酒井一博／佐野友美／

西村春輝／松田文子／余村朋樹

**[調査報告] 働き方の未来を50人が読む**

酒井一博

**労働科学研究所:年表 1921-2021**

# 労働の科学

2021  
December  
Vol. 76, No. 12

挨拶

100周年を迎えて

濱野 潤 [大原記念労働科学研究所 理事長] ..... 1

表紙作品：山本美智代

「光と音のコスモス」

プリント+コラージュ (15×23cm)

表紙デザイン：大西文字



## 創立100周年記念特別号

ご祝辞

労働科学研究所創立100周年を祝して

..... [公益財団法人 大原美術館] 大原 謙一郎 ..... 4

ダイバーシティ時代における労働科学研究所への新たな期待

..... [株式会社クラレ] 伊藤 正明 ..... 5

働く人を幸福に、より良い未来社会を目指して

..... [クラボウ (倉敷紡績株式会社)] 藤田 晴哉 ..... 6

鼎談

100年に学びつつ、今と未来を語る

..... 小池 一夫・濱野 潤・酒井 一博 ..... 7

大原記念労働科学研究所創立100周年記念企画

「働き方の未来を50人が読む」調査報告

「働き方の未来を50人が読む」プロジェクトチーム ..... 酒井 一博 ..... 17

レポート

地域連携 倉敷と労働科学研究所 ..... 編集部 ..... 18

未来を拓く産学連携 日本労働科学学会の設立と意義 .....	酒井 一博 .....	24
桜美林大学ビジネスマネジメント学群と 大原記念労働科学研究所の連携活動について .....	山口 有次 .....	25
本大学院との連携 .....	境 睦 .....	26
桜美林大学と大原記念労働科学研究所との連携講座について .....	坂本 恒夫 .....	27
労働科学とともに 高度経済成長時代の産業現場と労働 一単調労働調査に携わって一 .....	岸田 孝弥 .....	31
労働を科学してこの方 .....	肝付 邦憲 .....	34
多様な就労の場を支えて次の100年へ .....	小木 和孝 .....	35
祖師谷労研に生まれたある少年の思い出 .....	斉藤 進 .....	36
95年前からの不思議なご縁 ～個人的回顧と今後への思い～ .....	福成 雄三 .....	38
研究員の活動報告 労研は今 井上 枝一郎・北島 洋樹・酒井 一博・佐野 友美・西村 春輝・松田 文子・余村 朋樹 .....		40
労働科学研究所：年表 1921－2021 .....		55

## Column

次号予定・編集雑記 .....	74
労働の科学：第76巻 総目次.....	75



## 100周年を迎えて

濱野 潤

はまの じゅん  
大原記念労働科学研究所 理事長

大原記念労働科学研究所は本年7月1日をもって100周年を迎えました。1921年に倉敷労働科学研究所として出発して以来、経営形態や所在地は変遷を重ねましたが、今日まで研究活動を継続してこることが出来ました。これもひとえに維持会、大原ネットワーク、桜美林学園など多くの皆様のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

### 労働科学研究100年の歩み

この100年の間に経済社会の変貌はすさまじく、労働科学研究も労働現場の変化に対応し研究対象や研究分野を少しずつ変えながら実績を積み重ね、産業界はじめ社会に還元してきました。労働科学研究に長年取り組んできた小木和孝元所長、酒井一博前所長の考察によれば、この百年の研究は、①現場の問題を学際的に把握し分析する〈現場学際アプローチ〉、②労働を人間的なものにしようとする〈労働の人間化サポート〉、③問題解決に向けた処方箋開発を目指す〈対策指向汎用ツール〉の3つの共通した切り口で整理することが出来るとのこと。本『労働の科学』誌上で来年度から労働科学研究100年の歩みを经济社会状況の変化とともに振り返る連載がスタートします。

### 100周年記念事業

100周年を記念して、労働科学研究所では3つの記念事業に取り組んでいます。3つの事業に共通しているのは、一過性のイベントではなく今後の労働科学研究の発展に資するプロジェクトということです。

第1は、維持会とのコラボレーションによる『働き方の未来を50人が読む』調査の実施です。学界、企業、団体などからベストアンドブライテスト50人をお願いして、労働に関する重要なテーマについてご意見を伺い、その結果を集計・分析して社会に提供し、産業界の抱える諸課題の把握と問題解決の糸口を探ることを狙い

としています。第1回の調査結果は本誌9月号で公表しました。有識者の皆様の労働に関する考察の深さ、未来を読む先見力、労働科学研究への期待の高さを改めて認識した次第です。今後毎年定期的に調査を継続して参ります。

第2は、地域との連携です。労働や生活の諸問題の解決のためには地域の視点が欠かせません。本年度は創業の地倉敷で労働科学研究所の活動を復活させるべく、地元の有隣会と共催で作家の江上剛氏をお招きし百周年記念講演とシンポジウムを10月に開催し好評を得ました。これをスタートとして地域との連携事業を進めて参ります。

第3は、産学協働です。桜美林大学との教育研究面での協働はますます深化し、昨年度発足した日本労働科学学会はその活動をさらに活発化させています。産業界の知見を教育研究の充実に生かし、その成果を産業界に還元するという好循環を進化させて参ります。

### 新しい世紀に向けて

2019年冬に発生した新型コロナウイルスは未だ収束していません。労働科学研究所もコロナショックに見舞われ大きな打撃を受けていますが、各方面のご支援や所員の努力により研究活動を継続しています。コロナショックは我々の働き方にも大きな影響を及ぼしており、労働科学研究所ではウィズコロナの労働の実態を足下でしっかりと把握し分析することから新しい世紀を始めようとしています。それは労働の本質を問うことであり、ポストコロナに向けた模索にも繋がっていくものと考えます。

新しい世紀においても、ユニークな研究成果を世に問い、現場にソリューションを提供し、労働科学で社会に貢献するというミッションを実現していきたいと所員一同心を新たにしています。

皆様方の変わらぬご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。百周年のご挨拶といたします。